

## 葛川本流

【日時】 平成28年7月31日 晴れ後曇り、にわか雨

【メンバー】 Y川 (L)、T

### 【概要】

芦廻瀬川に引き続き、葛川本流を遡行した。芦廻瀬川での浸水事故により、カメラが使えず写真が無いのが残念だが、エメラルドグリーンの淵やゴルジュが連続する美渓であった。

田戸橋の手前に駐車し、橋の横から下降する。すぐに釜のある小滝である。多分、もう少し上流から下降すれば良かったのだろう。小滝は、左側を強引に突破した。しばらくは難しい所はなく、泳ぎ、へつりを交えて順調に進む。やがて両岸の壁が立ち、ゴルジュに突入する。核心のS字淵である。泳いで行くと砂が堆積した所が有り、ここでロープを付ける。Y川が空荷で泳いで行き、出口の1m滝の突破を試みる。記録では右岸からとなっているが、滝からの水が打ちつけており、つるつるで、流れもあり行けそうに思えない。そこで、左岸からの突破を試みる。まず、水から上がるのに苦勞する。そして、次はへつりである。上がることはできたが、へつりはつるつるで悪い。何度もドボンを繰り返す。右岸側も試みたが、押し流されすぐにあきらめ、もう一度左岸をアタックする。すると、ムーブができてなんとか突破できた。多分、30分近く粘っていたと思う。Tさんにコールし、ロープを引き寄せる。Tさんは、水流をつき進んでごぼうで上がってきた。

以後、何回泳いだか数知れない。とにかく、ゴルジュや淵が出てきたら泳ぎである。次の難所は、一の滝手前のゴルジュであった。S字淵と同じような狭い廊下で、ここも途中で切って空身でロープを付けて泳ぐ。ここで、珍しい光景を見ることができた。中間地点は幅2mほどのゴルジュの中の狭い岩棚だが、私が居るにもかかわらず魚が群がってくるのである。底の見えない深いエメラルドグリーンの中、黒い魚が群がり泳ぐさまは神秘的であった。Tさんが到着したら魚はいなくなると思ったのだが、水から上がるとすぐに群がってきた。ここからY川が空身で泳いで行き、1mほどの小滝の乗越を試みる。この廊下は、入り口手前から左岸を巻けそうだが頑張ることとし、小滝すぐ右の壁にとりつく。水から上がるのは難しくないが、上がってからがツルツルで次の一手が出ない。しばらく固まっていると、叫び声が聞こえてきた。何かかと思っていたら、キャニオニングのツアー一行であった。一の滝に飛び込み、さらに私の横を次々と飛び込んで下って行った。下るのは何とも簡単なことである。奮闘していると、先ほどと同じである。何となくムーブが出来上がり、ドボン無しで突破できた。一の滝の大釜の縁で、ここからは左岸を巻き一の滝を越えた。

以後泳ぎは減少し、やがて二の滝に到着、堂々とした滝である。左岸の崖に添って巻き上がるが、そのまま行くと詰まってしまう。戻ると崖の弱点を発見、容易に二の滝落ち口に出た。後はもう平流で、汚れを落とすため最後の一泳ぎし、下葛川集落に出た。デポしておいた自転車で、Y川が約10分の快適なダウンヒルで車を回収した。

入渓 8時45分 S時廊下過ぎ 11時20分 一の滝 14時20分 下葛川 15時45分